

平成 25 年度卒業式式辞

本日、晴れて卒業式を迎える人文学部国際コミュニケーション学科の 181 名の皆さん、同じく人文学部人間科学科の 153 名の皆さん、現代経営学部現代経営学科の 144 名の皆さん、そして、大学院現代経営研究科を修了される 4 名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

併せて、今日の日を長い間楽しみにして来られましたご家族の皆様にも、心からのお慶びを申し上げます。

また、学生の教育や日常のさまざまな指導・支援に携わって来られた教職員の皆様にも、そのご苦勞に、感謝の言葉を送りたいと思います。

東洋学園大学は、平成 4 年 4 月に開設されて以来、22 年が経過いたしました。大学そのものの歴史は決して長くはありませんが、今から 88 年前の大正 15 年に創立された東洋女子歯科医学専門学校から始まり、東洋女子短期大学を経て、東洋学園大学まで脈々と流れる高等教育の歴史と伝統は、私たちの大きな誇りでもあります。

今日卒業される皆さんは、学生生活の前半の 2 年間は、自然豊かな、そして時間のゆったりと流れる流山のキャンパスで、のびのびと学び、自由なときを過ごされました。そして後半の 2 年間は、東京のまさに都心である本郷のキャンパスで、素晴らしい青春の時を過ごし、数々の思い出を心の中に刻むことができたことと思います。

皆さんがこれから辿るであろう道程は、決して平坦なものではないと思われませんが、皆さんは、東洋学園大学で培った『力』と『誇り』をもって、その荒波の一つ一つを着実に乗り越え、さらに成長してくれるであろうことを、心より期待しております。

ところで、私たちを取り巻く社会の現状へ目を転じて見ますと、国内的にも国際的にも、また地球規模の面においても、あまりにも多岐にわたる解決困難な難問が山積していることから、いまや、地球上に生を営む人たちは皆地球人として、国家や民族や宗教などのしがらみを乗り越え、ともに手を携え、このかけがえのない地球の平和と安全を守って行かなければならないときに、さしかかっているように思われてなりません。

とは言え国内的に見ますと、平成 23 年 3 月 11 日、突如として発生した東日本大震災による被災状況が、あまりにも広範囲で深刻であることから、いまだに東日本はもとより、日本全体までもが自信を失い停滞した状況にあるように感じられ、心配は尽きません。

このような状況の中で皆さんは今、社会への第一歩を踏み出そうとしております。今日の門出に際し、皆さんにぜひ大切にして戴きたいと思う次の 3 つの事を、申し述べたいと思います。

なおこれは、皆さんが大学へ入学した 1 年目の、教養基礎演習の時間にも触れたことでもあります。

その 1 つは、『感謝の心』を大切にして戴きたい、と言うことです。

人は 1 人では、決して生きて行くことはできません。人はお互いに助けたり助けられたりしながら生きて行くものであります。したがって『感謝の心』は、人として身につけていなければならない、基本的な最も大切なものの 1 つであると、私は思います。

皆さんが今日、晴れて卒業式を迎えることが出来たのは、長い間皆さんを大事に育

て下さったご両親のお蔭にほかなりません。今日はぜひともご両親へ、心からの『ありがとう』の気持ちをお伝えください。親がお1人の場合はなおさらです。感謝の気持ちをしっかりとお伝えください。

自分を育ててくださった方への感謝の心は、すべての善意の根源であります。この心から、『思いやりの心』が育まれるものです。人を愛する心も、平和を愛する心も、地球を大切に思う心も、全て感謝の心から生まれて来るものと、私は信じております。

2つ目は、『感動』を大切にしたい、ということですが。

『感動』から『夢』や『希望』が、そして『頑張る力』が生み出されてくるものです。人から、書物から、あるいは自然界のさまざまな事柄から得られた、心に響く感動を大切にして、自分にふさわしい夢や希望を築き上げてください。その過程で、頑張る力も自然と芽生えてくるものです。

素直に感動する心と感性を、いつまでも大切に豊かに持ち続けてください。

3つ目は、『可能性』を大切にしたい、ということですが。

『可能性』は誰にでも、いろんな形であるものです。ことに若い皆さん方には、豊かに存在するものと私は強く信じております。そしてこの冬、皆さんの多くもご覧になったことと思いますが、『可能性』は誰にも確かに存在するというのを、身をもって私たちに教えてくれたのが、ソチにおける冬季オリンピックそしてパラリンピックへ出場した選手の皆さんたちでした。そのようなことから、今回の冬季オリンピックとパラリンピックは素晴らしい大会だったと、私はいまだに感動しております。

感動と可能性は、いつもお互いを必要とするものでもあります。感動は可能性を導き出し、夢を現実のものへと近づける原動力となるものです。同様に、可能性を信じる心は、感動する心と感性を豊かにしてくれるものと、私は確信しております。

皆さんは今、晴れて東洋学園大学に別れを告げることになりました。これからは社会の荒波の中で揉まれ鍛えられ、そしてたくましく成長してくれるものと、心より期待しております。

そして、皆さんが青春の最も多感な時を過ごしたこの東洋学園大学をぜひとも、『心のふるさと』としていつまでも大切に思って戴きたいと思っております。私たち教職員一同は、東洋学園大学が皆さんの『心のふるさと』にふさわしい大学であり続けるために、これからも努力を続けてまいります。

終わりに、皆様のこれからの新たな人生が、希望に満ちたものでありますことを祈りつつ、本日の式辞を終えたいと思っております。

平成26年3月20日

東洋学園大学学長 一ノ渡 尚道
(本郷体育館にて)